

傍観者あるいは 偶然のテロリスト

A KAZUO GOTO FILM

映画館を作った。ならば映画も作ろう。
高校の同級生たちと「シネマハウス大塚」を立ちあげた後藤和夫68歳が、
再びカメラを持った少年に還った。

あの日見た
闘争の炎は
どこに

シネマハウス大塚月未ロードショー決定

PALESTINE

Cool Hand production

20年前、戦車に向かって石を投げる少年たちを見た
あの日パレスチナの大地は燃えていた

カメラを手に激走した日々があった

あれから20年、老ジャーナリストが見たものは？

追憶のプライベート・ムービーここに完成!

【物語】

映画のシナリオを書いた。自爆テロリストの物語。ロケハンに行ってみようと思った。それは20年前の記憶をたどる旅でもあった。破壊と殺戮の現場を駆け回った日々。今、パレスチナを覆っているものとは何か？今もなお続く占領と抑圧の実態を見た。

【監督・後藤和夫】

1952年生まれ。18歳、大島渚『東京戦争戦後秘話』主演。22歳自主映画『ハードボイルドハネムーン』監督。20代後半からテレビ業界で働く。『ザ・スクープ』などの演出を経てフリーランスとして紛争地などを取材。2004年から2014年まで『報道ステーション』のプロデューサーを務める。

■国際政治学者 高橋和夫

「激しく、同時に、しみじみと心に染み込んでくる映像です。同監督の投げかけるパレスチナを越える普遍的な問いかけからは、誰も逃れられません。」(Amebaブログより)

■編集者・ライター 佐野亨

「大仰でなく、日本のドキュメンタリー史に残る重要作ではなからうか」(キネマ旬報 星取評より)

■映画評論家 川口敦子

「記憶と記録の現在、『壁と青空』は沁みた」(キネマ旬報 星取評より)

■映画監督 足立正生

「その記録は、耳目を塞いでも避けられないような、世界中の現代人が傍観して来た普遍的な人間悲劇のドキュメンタリーとなっている。必死に解答を探し求める後藤和夫の切なさは、観る者も座しては居られなくなるほどだ。そして、最後には、泣かずには観られないエンディングが来る。」

【月末ロードショー 上映スケジュール】 上映時間118分

:7/25 (土) 7/26 (日) : 8/29 (土) 8/30 (日)
:9/26 (土) 9/27 (日) : 10/31 (土) 11/1 (日)
:11/28 (土) 11/29 (日) : 12/26 (土) 12/27 (日)

◎土曜日は15:00 / 18:00の2回上映

◎日曜日は12:00 / 15:00の2回上映

*料金1,300円均一(税込み)

◎ご予約はメールにて。info@cinemahouseotsuka.com

シネマハウス大塚

〒170-0002 東京都豊島区巣鴨4-7-4-101

折戸通り 都立文京高校正門前

●JR山手線「大塚駅」北口から徒歩7分

●都電荒川線「巢鴨新田駅」徒歩3分

E-MAIL info@cinemahouseotsuka.com

TEL 03-5972-4130 FAX 03-5972-4131

WEB cinemahouseotsuka.com

